

平成29年度ボランティア活動支援事業・活動紹介

● おもてなし いやしカフェ（札幌市）

事業の実施概要・活動成果

平成30年、おもてなしいやしカフェは5年目となります。現在、週1に1回（第二土曜日、他毎日曜日）お食事をいただきながら、どなたでも参加でき、お互い様の心で思いやりを大切に地域の皆様と交流を開催しています。

一回、約5～7時間を皆様と共にし語りつくせないおしゃべりや手作りアレンジフラワー、お習字を行いながら、時勢の流れに沿った豊富な話題で飛び、ひとときいやしの空間を提供できたと思います。

また、サロン内でだけでなく、地域への参加、交流も積極的に行い、ディサービスへ音楽療法スタッフとして出向き、ピアノ、ハーモニカ演奏など実施・交流し、ディサービス参加者の皆様のすてきな歌声、笑顔をいただいています。参加され、交流された皆様がそれぞれご自分の得意とされる個性、技能を十分に発揮又受ける皆様も生き生きと生きていただきたいと願って、毎回、心を込めてサロンを開催しています。

● 山岳レクリエーション管理研究会（札幌市）

事業の実施概要・活動成果

想定の定員60名に対して平日夜の悪天候もあり33名（男性26名、女性7名）の集客結果であったが、参加者は札幌近郊及び釧路市、旭川市、美瑛町、黒松内町など遠方よりの熱心な登山関係者が多かった。

講演内容は市民団体による大雪山登山等の維持管理の実施報告（山守隊・佐久間氏）、及びNPO信越トレイルによる維持管理の紹介（北海道大学観光高等センター・木村氏）を行った。質疑応答では、北海道各地でボランティア活動による登山道維持管理を行っている山岳関係者から活発な質疑応答がなされ25分も時間延長した。

本報告会の成果として①大雪山における山守隊の活動を参加者に広く紹介できたこと、②信越トレイルの先進事例では官・民の相互理解と役割分担の必要性が指摘された。

また、婚儀に大雪山・山守隊が組織強化する過程で、今回の参加者への情報提供と活動への参加を促すような約束がなされた。



● さっぽろ若者応援ネットワーク（札幌市）

事業の実施概要・活動成果

① 月例会の開催

10代～30代の若者を中心に、毎回15名～20名くらいの参加があった。その他、若者の保護者や福祉・医療・教育分野の専門家の参加もあった。会でテーマとなるのは、メンタルヘルス、家族・友人との関係、修学、就労などについてであった。



② 全道当事者研究交流集会（9/2.3）、学校改造計画シンポジウム（1/13）の企画・運営の補助

イベントの企画会議から若者応援ネットワークのメンバーが参加し、当日は運営にあたった。全道からの参加者と、当事者県有を通じて、苦勞の分かち合いをすることができた。

③ さっぽろ若者サポートステーションとの連携

月例会への参加者のうち半数程度は、若者サポートステーションのスタッフからの紹介であった。月例会の様子や活動の実績を発信した結果、多くの若者への支援・応援につながっている。

活動の成果として、参加者からは、日ごろ話することができない悩みや困難さについて仲間に相談できる点が良いとか、孤立しがちな日常において仲間のつながりを実感することができるといった感想が聞かれている。今後も、学校や事業所、病院などの垣根を越えて若者が気軽に交流したり情報交換をすることができる場を作っていきたい。

● 特定非営利活動法人 北海道スポーツ GOMI 拾い連盟（札幌市）

事業の実施概要・活動成果

・第7回スポGOMI大会 in 札幌の開催

今大会は、67チーム365名（パートナーを含む）と、2番目めに参加者の多い大会となった。また、未成年者からも27名の参加があった。

1時間で集めたゴミの重量は272 kg と、過去最低の実績であったが、それだけ西区において、普段から清掃活動が頻繁に行われている証左かと思われる。



また、今回、初めての試みとして、事前にイベント説明会を一般市民向けに開催した。参加者は1名ではあったが、告知のプロセスにおいて、新聞広告（20万世帯×2回）に出稿するなど、遍くPRすることができた。

■ さっぽろアートボランティア・ネットワーク（札幌市）

事業の実施概要・活動成果

V-net主催の「ティ・パーティー」を開催し、今回は学生の「札幌国際芸術祭2017」のCM製作ワークショップの発表を中心に、トークゲストとともに17団体や多くの市民が交流し、当日参加者74名となりました。平成29年開催の芸術祭の見どころや、学生がワークショップにて制作した「芸術祭のためのCM」放映及び政策に関するレクチャー等や「都市と市電」制作プロジェクトによる制作裏話内容についても十分参加者をひきつけるものであったと思います。また、V-netホームページ作成についても17団体の交流が一層深まり、市民・道民をつながく芸術関係ボランティアの相互交流が、活発となった。結果、アートに関連する札幌の市民ボランティア団体が手をつなぎ活動内容を分かりやすく伝え、市民とともに札幌・北海道の芸術文化の発展に大きな力となるべく、そのけん引力となった。



■ 心の発見・大地の会（札幌市）

事業の実施概要・活動成果

代表自宅を開放して、交流会をしました。

障害を持ちながらも協働事業所で仕事をされている方2名のお話を聞き、参加者全員それぞれに理解し感動しました。

JR白石駅通路イベントスペースにて、エレキギターによるチャリティーコンサートをいたしました。札幌いのちの電話さんに集まった寄付金をお渡しいたしました。

イエローハット創業者の掃除道によるボランティア活動を実施し、ゴミ拾い、雑草刈り、街路樹沿いの花壇の花上を行いました。

■ 特定非営利活動法人 北海道歩くスキー協会（札幌市）

・事業の実施概要

定員は午前50名、午後50名、計100名、募集方法は札幌市学童保育連絡協議会、しないの児童会館（104館）、札幌エルプラザ及び地下歩行空間、昨年参加された方、北海道新聞（朝刊、夕刊）、市内の小学校22校等へ申込書を配布。その結果参加申込は午前49名、午後53名、計102名。締め後も参加申込が来ましたが用語の用意する都合上お断りをしました。当日の参加者は午前39名、午後40名、計79名で欠席者23名でした。午前と午後に分かれて特別ゲスト田中誠さんを中心に協会のスタッフが生徒に歩くスキーの初歩的な滑り方、ポールを使い方などを指導しました。短時間で滑れるようになり、最後に学年別、男女別に分けてミニレースを実施し、1位の人だけに

メダルを授与し、教室は終了しました。各自用具を返却し、参加全員に参加賞及び号外の新聞を差し上げ、特に号外の新聞については子ども達の写真が掲載されているため大変喜んでいました。

・活動成果

教室に来る子ども達は歩くスキーについて何人かはリピーターで来ているが、ほとんどの子ども達は初めてです。靴のはき方、ポールの使い方、滑り方などをスタッフから教えてもらい短時間で滑れるようになり子ども達は喜んで滑っています。協会としては裾屋を広げるためには小学生のうちに経験をして、いつかの時点で歩くスキーをした経験を思い出して歩くスキーをしていただければと思っています。これからもできる限り歩くスキーの普及と道・市民の健康増進に寄与することを努めて参る所存です。

■ 札幌南ふゆみずたんぽの会（札幌市）

事業の実施概要・活動成果

札幌市南区の学童保育所の児童らを対象に、稲刈り体験と脱穀・とうみ体験を実施いたしました。当初予定していた学童保育所2か所のうち1か所が日程の都合が合わず、参加予定人数の約半分（26名）での実施でしたが、子供らの笑顔と充実した顔が見られた楽しい活動でした。寒さを感じられるにも手袋と温かい飲み物などで和やかに過ごすことができましたし、用意したブルーシートやさらし竹で安全に作業することができました。



児童らは稲刈りを一生懸命に取り組み、一輪車で運び、今年のわらを柔らかくたたき束ねようのワラ作りを太鼓のようにリズムカルな動きで行い、どの工程も大いに楽しみました。脱穀工程では、昔ながらの足踏み脱穀機を足で漕いで稲束から粃をばらばらにする作業を頑張りました。身体を動かすことを好む児童らに適していたようでした。唐箕工程では、粃を落とす児と唐箕を回す児に分かれ、それぞれ順番に選別作業を頑張りました。

振り返りの時間では「足踏み脱穀が楽しかった」「作業がたくさんあって大変だなーと思ったのでご飯を残さないで食べようと思いました。」などの意見がありました。

児童らは楽しんで作業を行った他にも、これらたんぽ体験から何かしら得たものを持ち帰ったと確信しています。

■ 北海道点字情報ネットワークプロジェクト（道央圏・江別市）

事業の実施概要・活動成果

視覚障がい児（者）と地域社会を繋ぐことを目的に、視覚障がい児（者）が必要としている社会情勢等の情報を提供することを主な活動内容として、道内の各盲学校で学ぶ児童・生徒、社会で活躍している視覚障がい者に対し、新聞記事の点訳及び点字印刷物の発行を行った。

新聞記事は週刊のシリーズ記事や別冊の子ども新聞を3種選定し、点字ページ3,434分を点訳し、延べ1,036部を配布した。

また、会員からの依頼による点訳は、会員個別の趣味の活動に関するプリントや、講座のテキスト等、22件の依頼を受け、展示ページ7,260ページ分を点訳した。

依頼会員からは、社会で話題になっている情報がリアルタイムに得られるなど、有効に活用されているとの評価を得ている。

■ えべつケアラズ（道央圏 江別市）

事業の実施概要・活動成果

今年度は、ケアラズカフェ事業及び研修を実施いたしました。

ケアラズカフェ事業は定期的に行い、研修会はオープンカウンセリング形式で講師の方々にご対応いただき非常に実りあるものとなりました。

なお、定期的に開催してほしいとの参加者の声も多く次回の開催もすでに決まることになりました。



■ 夕張子どもの文化の会「かぜちやる」（道央圏 夕張市）

事業の実施概要・活動成果

旭山動物園では親子連れは数組グループで、子どもだけの参加はスタッフとともに動物に親しみ、楽しくお弁当を囲みました。限られたおこづかいで家族におみやげを選ぶ姿もほほえましかったです。普段社を使わなければ行けないような所に、保護者と出かけるのが難しい子ども達もたくさん参加できて皆さんとても喜んでいました。



帰りは旭川こども富貴堂に立ち寄り、絵本作家・あべ弘士さんの原画を観た後、お店の方に読み聞かせをしてもらったり、絵本を立ち読みしたり、楽しいひとときでした。

■ 特定非営利活動法人 オアシス（道央圏 砂川市）

事業の実施概要・活動成果

砂川の市街地を流れるパンケ歌志内川が河川整備され、親水広場ができました。花壇42柵が設置されて有効活用され憩いの場になるよう、広場の清掃と花の植栽を行っています。河川環境の保全と美観に役立っています。花は色鮮やかに咲き、道行く人を楽しませ、喜ばせ、特に市立病院に近いので生き帰りに散歩して憩いの場として利用されています。この活動には地元町内会をはじめ、多くの団体の方々に参加していただいています。



■ 砂川子どもの水辺協議会（道央圏 砂川市）

事業の実施概要・活動成果

最近気候の変動が激しく豪雨災害が各地で起きています。今回は、防災講演会に3名の講師をお願いしました。北海道文化放送（UHB）気象予報士・防災士の菅井貴子様、「防災について解りやすく」札幌開発局建設部滝川河川事務所の正木孝治様、「石狩川洪水被害状況等と砂川遊水池の役割と仕組み」砂川市長 喜岡雅文様、「砂川市内災害被害と備え避難状況等」を話していただき、参加者は真剣に聴き入っていました。



防災教育イベントでは、魚類調査探検、Eボート試乗体験、降雨体験コーナーでは、実際の風雨を体験して防災についての知識を学びました。

お祭り広場ではスーパーボールすくい、絵手紙DE七夕の短冊作り、石絵あそび等をして、参加者は楽しみました。この活動で防災に理解が深まり、継続していくことが将来的に住みよい地域社会づくりに貢献できると考えております。

■ 深川市緑町東町内会（道央圏 深川市）

事業の実施概要・活動成果

利用の少ない「緑町公園」を有効利用するべく、町内会にて協議の結果、「ラジオ体操」を地域住民を対象とした取り組みに対し、予想に反して参加者が、日々増えてきて、当初20名弱だったのが、毎日30名以上になり、夏休みに入ると子どもも参加し、最高参加者数90名の日もあり、次第に近郊の町内会からも参加されるようになり、口コミで増えてき



た。

会場のごみ拾い・草刈りも率先して、参加出席していただけるようになり、予定の9月末日が、10月9日の体育の日まで延期して開催しました。

特に、高齢、単身世帯の方が、増えることで、毎日の健康管理と引きこもり防止にも一役を担っており、体操終了後は、同場所のベンチで懇談している姿も珍しくなく、是非、来年度以降も継続して開催することを希望されていますので、継続実施に向けて準備中です。

■ 室蘭障がい者スポーツ協会（道央圏 室蘭市）

事業の実施概要・活動成果

7月23日、樋口講師によりボッチャに関する解説をDVD等を通し説明してもらい、参加者に試合の実体験を行った。

10月8日、障がい者、健常者の区別なく、オープンクラスで試合に行った。幅広い年齢層の方々が参加し、交流を図ることができた。

市民にボッチャの理解を広めることができ、また、競技人口の増加が図られた。審判を含むスタッフの技術向上にもでき、効率的に運営することができた。



■ 日向ひょっとこ踊り登別愛好会（道央圏 登別市）

事業の実施概要・活動成果

私たちは会発足3年が過ぎました。月3回の練習を行い近隣以外の老人施設又は各夏、冬のイベント会場に出向き活動をしています。

あくまでボランティアをモットーに多くの皆様に観ていただき喜んでいただいております。

自分たちの健康体を維持することに繋がっています。北海道愛好会に所属していますので、遠くは伊達、浦河、苫小牧市また、九州で行われる大イベントにも春、夏2回の行事に約12～13名の会員で出場し踊りを学んできています。



■ のぼりべつ NPO ネット（道央圏 登別市）

事業の実施概要・活動成果

私たち、のぼりべつNPOネット（通称Nネット）は市内のNPO法人が情報交換しながら緩やかにネットワークを構築し、地域づくり等に貢献しております。

今回は、定例会で「子どもの貧困」がテーマとして上がり、当市における子どもの現状と課題について講師を招聘し、学び会を企画いたしました。

当日は市民活動団体や教員、市議会議員など様々なセクターから40名の参加をいただき、講師の先生から「地域の子どものは地域で育てる」というテーマで講話をいただき活発なディスカッションが行われました。



■ とうや共助の町づくりネットワーク（道央圏 洞爺湖町）

事業の実施概要・活動成果

・定例会（毎月1回）

実施内容：見守り実施状況、活動報告会、活動内容検討会

効果：会員相互の意思疎通、協力体制の醸成

・町との共催イベント

実施内容：洞爺湖町地域包括支援センターとの共催による、認知症徘徊会社行方防止のためのGPSによる探索模擬訓練（参加者55名）

効果：民生委員、福祉委員、介護施設職員、一般町民が参加し、ウェアラブルGPS端末携行の効果を実感した。徘徊行方不明防止のための手段としての有効性を実感し、普及への進展が期待できる。

・独居高齢者のICT活用見守り

実施内容：洞爺湖地区の独居高齢者にウェアラブル端末を貸与し日常見守りを継続的に実施。常時見守り対象3名、体験的な見守られ者（延べ体験的な見守られ者（延べ5名））

（365日毎日、2分間ボランティア見守り：3～4時間協力）

効果：見守られ者の完走として、安心感が増したとの感想もあり、又、2分間在宅見守りボランティアの試行実施により、地域住民の連携見守り増進に多大の効果があつた。

■ ボランティアグループ すみれ会（道央圏 洞爺湖町）

事業概要・活動成果

年間を通して、牛乳パック（1ℓのもの）を使ったイス作りや、古布を使った巾着などを作成し、町内施設へ寄贈しています。また年1回町内施設の清掃活動に合わせて、カレーライスを作り、振る舞うなどの活動を継続し、行っているグループです。

結成より13年が経過し、清掃活動や食事づくりボランティア、運動器具等の製作活動をはじめ、数年前にはタオルで帽子を作り、町内病院への寄贈や、町主催の高齢者運動会での炊き出し（豚汁づくり）や町主催の避難訓練時の配給作業協力など、積極的に地域のため、幅広い活動を行っています。

毎年、カレーライス作りでは、食事を提供し、喜んでいただいております。



■ 穂別読み聞かせの会 ひまわり（道央圏 むかわ町）

事業概要・活動成果

絵本作家、黒川みつひろさんを招いた、子ども向けの講演会である。幼児から小学生まで20名余、保護者・自治体関係者40名余、スタッフ10名が参加。そのうち、町外からの参加者が30名ほどと大盛況であった。講演の内容は、絵本の読み聞かせ、化石（実物）を触ってみる、恐竜の名前あてクイズ、手品など。恐竜に興味を持ち、知識の豊富な子どもも多く、黒川さんの専門的なお話に真剣に聴き入っていたのが印象的であった。

本町での恐竜の全身骨格の化石発見をきっかけに、恐竜や化石に興味を持つようになった親子連れが多く、活動が広がりそうな手応えを感じた。

また、町外から参加した、熱意のある親子は、博物館や地球体験館など、近くの施設も合わせて見学してくれるなど、大きな成果の感じられるものとなった。



■ 函館スーイ・スイ・スイミングクラブ（道南圏 函館市）

事業概要・活動成果

今年度は29年4月から30年3月まで30回の教室を開催、9月より小3男子が入会し会員が7名となりました。会員の出席状況も良好で日曜日の教室を楽しみにされているようです。ボランティアも毎回10名程の方がコーチとして参加協力をいただき、皆勤賞も4名が該当する見込です。

恒例のお花見は、会員家族も含め20名の参加で親睦を深めることができました

第23回のハンディキャップ水泳大会には、2名がエントリーし開会式で選手宣誓を行いました。大会の運営を行う競技役員には8名が参加、函館元町ライオンズクラブの方々もリ克雷ーションの部のお手伝いをいただき、記録賞・メダルを寄贈、閉会式で各クラブ代表への授与も、子ども達の笑顔につながったと感じています。

少人数での運営ですが、水泳を通して子ども達へ寄り添った運営ができ、子ども達やボランティア会員に水泳の楽しさを伝えることができたと思います。



■ 高丘町会（道南圏 函館市）

事業概要・活動成果

大災害時において、停電により電気の使用不可が想定される。

今年度は29年4月から30年3月まで30回の教室を開催、9月より小3男子が入会し会員が7名となりました。会員の出席状況も良好で日曜日の教室を楽しみにされているようです。ボランティアも毎回10名程の方がコーチとして参加協力をいただき、皆勤賞も4名が該当する見込です。

恒例のお花見は、会員家族も含め20名の参加で親睦を深めることができました

第23回のハンディキャップ水泳大会には、2名がエントリーし開会式で選手宣誓を行いました。大会の運営を行う競技役員には8名が参加、函館元町ライオンズクラブの方々もリ克雷ーションの部のお手伝いをいただき、記録賞・メダルを寄贈、閉会式で各クラブ代表への授与も、子ども達の笑顔につながったと感じています。

少人数での運営ですが、水泳を通して子ども達へ寄り添った運営ができ、子ども達やボランティア会員に水泳の楽しさを伝えることができたと思います。



■ 八の日ジャンプの会（十勝圏 帯広市）

事業概要・活動成果

廃棄物の地域循環型を目指して、①割り箸、②リングプル、③ボトルキャップ、④古布、四品目を回収します。概ね柏小学校区域内に、家庭から回収する拠点15か所を設置し、定期的に「プラザ六中」に運んでもらいます。会員の理解と協力体制を整えた。

特に、割り箸については、「木質ペレット）」に加工し、ペレットストーブ設置の小学校、地域集会所に提供（贈呈）をしています。リングプルは、社会福祉協議会を窓口を提供。ボトルキャップは、「イオン帯広店」軽油で江別の工場に運搬され、イオングループから国際NGOを経由して飢餓国の医療支援となっています。古布は、自とも障がい者団体の就労支援に貢献しています。

当会は、各家庭→拠点（15か所）→プラザ六中→関係団体・企業へとつなぎを担当しています。



■ 音更町更生保護女性会（十勝圏 音更町）

事業概要・活動成果

年1回、学童保育所を訪れ、子ども達に昔の玩具を使った遊び方を伝承しています。

玩具は、手作りパッチ（めんこ）、お手玉、折り紙、紙風船、あやとり、竹割、おはじきの8種類です。

持参した玩具は、学童保育所に寄贈しています。

■ みはら・かがやき食堂実行委員会（釧路・根室圏 釧路市）

事業概要・活動成果

みはら・かがやき食堂は子どもの健全育成や地域交流の場の形成を目的として、地域食堂・運動（一輪車）・学習応援を3本柱に平成28年4月に活動を始め、2年次目となる平成29年度は計9回の開催、利用者の数は食堂1,913人、運動124人、学習265人となりました。食堂は、毎回オープン前から行列ができるほどの盛況で、たまたま隣り合わせ、向い合わせの席に座った人同士が賑やかに食事を取りつつ、会話を楽しむ風景がみられ、また、並行して開催している一輪車教室（体幹トレーニング）にも多くの子ども達が参加するなど、地域において、幼児からお年寄りまで、幅広い年代のたくさんの人々が集う多世代交流の場として、大きな役割を果たしています。



■ 釧路要約筆記サークル「あかり」（釧路・根室圏 釧路市）

事業概要・活動成果

手話取得の困難な聴覚障がい者に書いて伝える活動をしています。会議、病院受診、講演会、就労に関する相談など多岐にわたる依頼に応えています。

毎週、定例会を持ち、通訳に必要な学習を積みながら活動しました。

OHC用のロールは高価で自己負担が重かったが、助成をいただけて、負担軽減に繋がりました。市のボランティア協議会にも入り、他団体と協力しながら積極的に活動に参加することができ、「ありがとう賞～強力な仲間として参加してくれていることに感謝して～」をいただきました。

これからも聴覚障がい者（特に中途失聴・難聴者）の良い支援団体として活動を続けていきたいです。



■ 白糠町バレーボール協会（釧路・根室圏 白糠町）

事業概要・活動成果

白糠町技である『バレーボール』を活発化させるために、小学生チームや中学生・白糠高校まで、協会から指導者を派遣してチームの強化していますが、小中学生を一同に集めて指導する場合、指導者スタッフが混雑して、子ども達から、誰が指導者なのかとてもわかりにくいと意見をもらいました。

今回、助成により白糠町バレーボール協会の指導者用スタッフTシャツが整備できました。

一同に集めた指導は、子ども達から、たいへん好評で9月から始めましたが、毎月、開催することができました。12月には冬休み期間、白糠町出身のバレーボール選手が集まり、中学生を指導する機会も生まれ、2コートに6チームでの試合形式の練習に発展することができました。

また、その後も毎月定期的に小学生と中学生の合同練習を実施して、チーム間の交流も生まれております。チーム成績も上がり、中学生チームは、2月の大会で釧路管内準優勝の結果となりました。小学生も成績は上がる予定です。

昭和49年度に設立され、昨年度で43周年を迎えました本協会は、道東を代表する道東小学大会や道東中学大会を主催するなど、道東をリードしてきた協会であります。

これからも、町技バレーボールの普及と技術指導を継続して、白糠町の生涯スポーツとして小学生から家庭婦人まで、応援し続ける白糠町バレーボール協会として、今後も活動を推進していきたいと考えております。



■ チームLDH（釧路・根室圏 中標津町）

事業概要・活動成果

イベント開始直前に雨が降ったり、イベント中も小雨が降ったりやんだり天候には恵まれなかったが、コンドルズのお二人の軽快なトークと『東京五輪音頭』を振り付けしたという簡単な踊りもあり、見学していたお客さんからも参加が多数ありました。

櫓の周りの輪も大きくなり、少し難しい『にゅ〜盆踊り』も一般参加者とともに楽しみました。

夏祭りの町民パレード後の15:30~16:30という時間帯、また小雨の中という集客しづらい状態にもかかわらずイベント参加が310名という結果にお祭りの1イベントとして喜んでもらえたと思います。



■ MIX JAM 実行委員会（釧路・根室圏 中標津町）

事業概要・活動成果

年間約20万人の来場者を教えながら、夜は閉館してみることでできない道立ゆめの森公園でイベントを、「なかしべつカルチャーナイト」の一環として、昨年度初めて「アコースティック カルチャーナイト」を実施しました。今年度で2回目です。

照明は全天候型アリーナの窓から星空が見える程度に抑えつつ、アコースティックギターと歌、朗読の出演者が映えるような演出を施しました。

また、会場が広いために、音量・声量を補うために音響設備をレンタルしました。

会場には子どもから高齢者まで訪れました。目標の100名には届きませんでした。70名がゆめ森での七夕の夜を楽しみました。

課題としては、来場者を増やすための工夫が必要と考えています。町内での紙媒体や口コミ、メディア、SNS等、周知方法を検討し、来年は来場者100名を達成できるようにしたいです。



■ 旭川いのちを考える懇談会（道北圏 旭川市）

事業概要・活動成果

今回は若い方の参加が多く、旭川大学短期大学のゼミ生21名と先生2名が参加してくれました。講師のお話しに涙する人がいるなど、みなさん感動していました。代表より挨拶があって、私どもの会の活動報告をDVDで紹介し、その後、1時間20分の講演で閉会の挨拶で終了しました。成果としては、一昨年の参加者から、昨年は講演会当日のスタッフとして入ってくださり、人づくりができたことを嬉しく思いました。



■ コミュカフェ HOC（道北圏 東神楽町）

事業概要・活動成果

町内の3歳以上の幼児・小学生とその保護者を対象に、ハロウィンパーティーの装飾用のジャック・ランタンづくりを体験してもらうイベントを実施しました。

当初、親子10組程度を対象としていたが、予想以上に早い段階で申し込みが相次ぎ、申込締切後も問い合わせをいただきました。

来年も継続して行きたいと思います。

参加された方からも「とても楽しかった」とか「自宅でも早速実践してみた」などと、感想やコメントをいただき、好評だったようで安心しました。



■ 美幌町青年活動団体 B-live（オホーツク圏 美幌町）

事業概要・活動成果

当日は、雨天でときどき雨がやむような天候であり、代替プログラムの実施を検討しましたが、時間を短縮してでも外で予定した水鉄砲のプログラムを実施したいという考えおり予定通り開催しました。

悪天候のため、参加者が少数となり大変残念でしたが、会場となった公園内を所狭しと子ども達が走り回る様子を見ることができました。

スタッフも団体以外に地域の子どもの会の大人や、高校生のボランティアや有志の方々にご協力いただき、子どもと同数の若者が子ども達を追いかけ、追い回されながら交流



を深めていきました。水鉄砲を通して、外遊びの機械の拡充だけではなく、地域の若者との交流の場を今回も作り出すことができたと考えております。この事業を通して美幌町という町が楽しいすてきなふるさとであるという思い出が参加者に残ってくれればと考えております。

今後とも継続的に事業に取り組むとともに、内容を一部見直し、さらに子ども達の豊かな成長に寄与したいと考えております。

■ 遠軽町南町第二自治会（オホーツク圏 遠軽町）

事業概要・活動成果

「ふれあいサロン」を通じて、陶芸教室、講演、親睦交流会、絵手紙教室、陶芸教室、クッキング教室などを開催しました。

参加した高齢者や児童の親から、お礼の言葉もいただきました。

また、収穫祭の石狩鍋は、参加できない独居高齢者に宅配をして大変喜ばれました。



■ 遠軽町ウチダザリガニ防除ボランティアグループ（オホーツク圏 遠軽町）

事業概要・活動成果

遠軽町内を流れる湧別川水系において、特定外来生物に指定されているウチダザリガニの防除活動を行いました。参加者は町内の小中学生から募集しました。防除活動の実施にあたり、外部講師を招いてウチダザリガニの特徴や在来のニホンザリガニとの見分け方、特定外来生物防除制度の概要等を説明してもらいました。その後、実際に川に入って参加者によりウチダザリガニの捕獲を行いました。捕獲したウチダザリガニは、塩ゆでにしたり素揚げにして参加者で味わいました。参加者からは「エビやカニみたいでおいしい。」との感想が聞かれました。



この活動を通じて、ウチダザリガニなどの特定外来生物問題や、生態系の保全、環境問題等に関する住民の理解が深められました。
